

もも管理特報 No.5

令和4年6月17日
みな穂もも振興会
みな穂農業協同組合
富山県新川農林振興センター

1. 「あかつき」の生育状況

(1) 肥大状況(6月13日時点、満開63日後、果樹研究センター)

- 果実の横径は、49.0mmで前年に比べ大きく、平年に比べやや大きい(前年比117%、平年比106%)。
- 本年は、開花後から順調に肥大している。

(2) 硬核期

- 本年の硬核期は、前年、平年に比べ3～5日早い満開後51日目(6月1日頃)から始まった(果樹研究センター測定値)。満開後70日目頃(6月20日頃)まで続くと予想される。

(3) 収穫開始予測(果樹研究センター:日平均気温に基づく予測)

- 本年の収穫開始は、7月23日頃と予測される(果樹研セ実測値:前年7/19、平年7/20)。
※向こう1ヶ月の気温は平年より高い、降水量は平年並みと予報されており(新潟地方気象台6月16日発表)、予測よりも早まる可能性がある。

2. 病害虫防除

<病害虫の発生状況>

- せん孔細菌病:少発生。一部園地では多発生、果実病斑もみられる。
- ナシヒメシンクイ:新梢の心折れ症状の初発は、5月中旬頃。初発は平年に比べ遅く、発生量は平年に比べ少ない。
- カイガラムシ類:少発生。一部園地で多発。
- 果樹カメムシ類:フェロモントラップでの誘殺数は、発生が多かったR2に比べ少ないが、5月以降継続して誘殺されている。

<防除のポイント>

- せん孔細菌病は、例年、梅雨時期以降に多発する傾向にある。「枝つり」、「支柱立て」による薬剤到達性の改善と併せ、引き続き薬剤防除の徹底と罹病枝の切除に努める。
- (有袋栽培)せん孔細菌病の果実感染防止のため、袋かけが終了していない園地では速やかに実施する。

(1) 薬剤防除

< 結実樹対象 >

※散布時期は「あかつき」の収穫開始を7/23とした場合の目安

回数	散布時期の目安	対象病害虫	薬剤名と希釈倍率		100% 当たり 薬剤量	散布量 (% / 10a)	防除実施日 (自己記入)
10	6/25 ~27頃	黒星病、灰星病 せん孔細菌病 モモハモグリガ シンクイムシ類	トレノックスフロアブル	500倍	200cc	400	
			ノーモルト乳剤 展着剤 マイリノー	2,000倍 20,000倍	50g 5cc		
11	7/7 ~7/9頃	灰星病 モモハモグリガ シンクイムシ類 カメムシ類 コガネムシ類成虫	バルコートフロアブル	2,000倍	50g	400	
			モスピラン顆粒水溶剤 展着剤 マイリノー	4,000倍 20,000倍	25g 5cc		
12 ※1	7/18 ~20頃	灰星病 モモハモグリガ シンクイムシ類 カメムシ類 アブラムシ類	アンビルフロアブル	1,000倍	100cc	400	
			スミチオン水和剤40 展着剤 マイリノー	1,000倍 20,000倍	100g 5cc		

※1 スミチオン水和剤40の使用時期は、収穫3日前までであるため、「あかつき」より収穫が早い品種に飛散しないように留意する。また、アンビルフロアブルは除・破袋した品種に対して散布する。

< 未結実樹対象 >

回数	散布時期	対象病害虫	薬剤名と希釈倍率		100% 当たり 薬剤量	散布量 (% / 10a)	防除実施日 (自己記入)
7	6/28 ~30日頃	黒星病、灰星病 せん孔細菌病 モモハモグリガ アブラムシ類	トレノックスフロアブル	500倍	200cc	100~ 200	
			アドマイヤー水和剤 展着剤 マイリノー	2,000倍 20,000倍	50g 5cc		
8	7/23 ~25頃	モモハモグリガ シンクイムシ類	スミチオン水和剤40 展着剤 マイリノー	1,000倍 20,000倍	100g 5cc	100~ 200	

< 結実・未結実樹共通 >

【ハダニ対策】

・ハダニ類の発生が認められた場合は、マイトコーネフロアブル（1,500倍、前日まで、1回）を単用散布する。

・農薬散布時は、近隣に告知するとともに、周辺の他の作物に薬剤が飛散しないように十分注意してください。

・また、使用前に農薬ラベルの登録内容をよく確認して使用してください。

3. 今後の管理

<ポイント>

- ・（硬核期の作業）硬核期に行う摘果や夏季せん定は、「核割れ」や「生理落果」を助長するため、これらの作業は極力見合わせ、硬核期が過ぎて（6月20日頃）から行う。
- ・（着色管理）日当たりが悪い場合には、「枝つり」や「支柱立て」で受光体勢の改善を図る。
- ・（土壌水分管理）排水不良や土壌の干ばつは、樹にストレスを与え果実肥大の停滞やえぐみを増加させるため、降雨後のほ場外への速やかな排水、少雨時のかん水に努める。
- ・（苗木の管理）第1主枝の伸長を優先させるため、主枝より太くなりそうな新梢は、2、3芽残して切除する。また、土壌水分が急激に変化しないよう、マルチとこまめなかん水を行う。
- ・（樹勢衰弱樹対策）新梢の伸びが悪く、葉色が薄い場合は、果実を全摘果し、追肥する。

(1)支柱立て、枝吊り

- ・ 枝折れや枝の下垂を防ぎ、樹冠内の光到達性を高めるため、「支柱立て」や「枝つり」を実施する。
- ・ 「支柱立て」は、支柱と主枝や垂主枝、支柱と支柱、支柱と杭などをロープでしっかり固定し、風などで外れないようにする（図1）。
- ・ 特に、日焼けやキノコ（木材腐朽菌）が発生している場合は多めに支柱を入れる。



①支柱と主枝を結束



②支柱と支柱を結束



③支柱基部を杭で結束

図1 支柱立て

(2)夏季せん定

- 新梢管理は、硬核期終了後（本年は6月20日頃：満開後70日目）から開始する。
- 夏季せん定は、骨格枝基部付近の徒長枝を中心とし、捻枝・摘心などにより受光態勢を良好にするとともに、翌年の側枝候補枝を確保する（図2）。
- なお、過度な切除は葉枚数不足による樹勢や果実品質低下を招くことから、必要最少限にとどめる。

長めの副梢を2～3本残して徒長枝を切除（摘心）



図2 夏季せん定の例

(3)除破袋・葉摘み

- 除袋または破袋は、収穫1週間～10日前に実施する（本年の「あかつき」収穫開始予測は、7月23日頃）。
- 使用している袋の種類や品種によって着色の仕方が異なる。着色の難易により除袋時期を前後させる。
- 除袋時に果実に密着して光をさえぎっている葉があれば、2枚程度摘み取る（図3）。



図3 葉摘み
果実に触れている①、②を摘み取る

(4)反射シートの設置

- 果実の着色促進等を図るため、除袋前後から反射シート（シルバーマルチやタイベックシート等）を設置する

○6月中旬～収穫直前 ももの作業チェック表

作業内容	作業のポイント	実施適期	実施予定日 (自己記入)	実施日 (自己記入)
出荷準備	<ul style="list-style-type: none"> 袋かけ数から、販売果実数を品種ごとに見積る 袋かけ数×収穫率(目標90%)×商品化率(目標80%) ＝販売個数 贈答用の予約を受け付け、上記の計算から、どの時期にどの程度出荷するか計画を立てる 出荷用資材を準備し、選果・販売所を整理整頓する 	6月中旬～ (袋かけ終了後)		
薬剤散布	<ul style="list-style-type: none"> 散布ムラが生じないように丁寧に散布する 散布間隔が10日以上あかないように注意する 散布予定日が降雨の予報である場合は、前倒しで実施する 	2. 病害虫防除参照		
せん孔細菌病罹病枝の切除	<ul style="list-style-type: none"> 症状のある部分の枝は、見つけ次第切除し、園地外で処分する 	随時		
灰星病罹病果の切除	<ul style="list-style-type: none"> 罹病果実とは枝ごと切除し、園地外で処分する 罹病果実・枝を触った手で他の健全な果実を触らない 	随時		
着色管理	<ul style="list-style-type: none"> 新梢管理、枝つり、支柱入れを実施し、樹冠内部まで光が届くようにする。 除袋・破袋し、反射シート等も利用して着色を向上させる 	3. 今後の管理参照		
土壌水分管理	<ul style="list-style-type: none"> 乾燥、少雨が1週間以上続く場合は、かん水を実施する 特に苗木はこまめにかん水を実施する 梅雨に入っているので、早めに明きよの設置により園地内に雨水が停滞しないよう排水対策に努める 	必要時		

<問い合わせ先> JAみな穂 舘田 83-3212